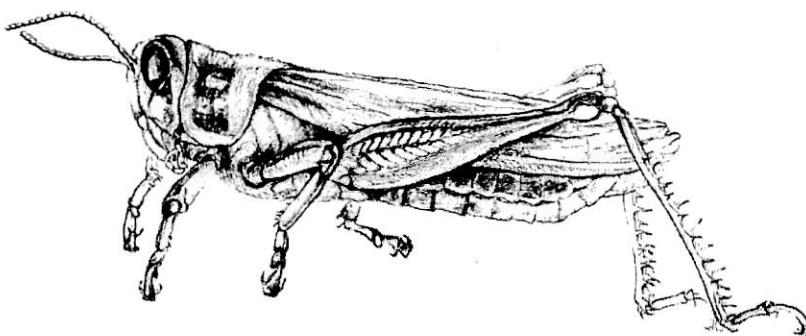


協議会ニュース 136号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2012. 8



ツチイナゴ 杉澤 岩子(奥三河支部)

矢並湿地のラムサール登録と今後の課題	西三河支部 深見 弘	P2
研修 =タケ=	名古屋支部 鬼頭 洋子	P3
ため池の自然と生物多様性	名古屋支部 萩原 育男	P4
初夏の里山で自然を感じよう	尾張支部 齋竹 善行	P5
鳳来寺自然科学博物館と参道散策	奥三河支部 小山 舜二	P6
福山川の生き物は今年も元気かな	知多支部 降幡 光宏	P7
観察会のヒント とんぐりのF1カー	西三河支部 河江 喜久代	P8
私の活動紹介	尾張支部 平井 直人	P9
理事会報告		P10
事務局だより		P11
行事案内・編集部		P12

矢並湿地のラムサール登録と今後の課題

西三河支部 深見 弘

環境省は7月にルーマニアで開催される、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約の締約国会議で、新たな登録地として豊田市の矢並湿地など3湿地からなる「東海丘陵湧水湿地群」ほか8ヶ所を指定すると発表した。日本では1980年に釧路湿原が最初に登録され、以来、尾瀬、琵琶湖、藤前干潟など37ヶ所が登録され、新たな9ヶ所を加え46ヶ所になる。

「東海丘陵湧水湿地群」は矢並湿地、恩真寺湿地、上高湿地の三つの湿地からなる広さ23ヘクタール。藤前干潟の7パーセントしかなく、そのうち湿地自体は1.2ヘクタールと僅かだが、周辺の集水域を含めての登録は、開発の影響を受けにくくして、一層の保全につながる意味が大きい。湧水湿地は、土砂が流れ込み堆積して乾燥に強い植物が侵入して、数十年後には自然消滅してしまう。そのため、人の手を入れてでも残していくことが重要であるといえる。今回の湿地群としての登録、湧水湿地の登録、周水域を含む登録の何れも日本では初めてでその意義は大きい。

この三つの湿地には世界中で東海地方だけに分布する「東海丘陵要素植物」が生育し、その代表のミカワシオガマとシラタマホシクサの紅白の競演は、秋の湿地を華やかに彩る。他にはシデコブシ、ヘビノボラズ、クロミノニシゴリなどがある。

今まで矢並湿地だけを、秋に3日間一般公開してきた。ラムサール条約では湿地の賢明な利用、すなわち湿地の常時公開を要望しており、豊田市もその方向に沿い、3年後の常時公開に向けての散策道、フェンスなどの整備に入る。



▲紅白競演のミカワシオガマと

シラタマホシクサ



▲地元保存会による保全作業風景

今後の課題としては常時公開を実施した場合、無断侵入や盗掘が心配されることである。草刈を中心とした湿地の保全活動は地元の有志による保存会による活動が定着してきたが、新たな悩みと取り組むことになる。

最後に、自動車を中心としたものづくりの町豊田市が国際的な自然保護条約の登録地を持つことにより、自然保護、湿地保護への関心が高まり、登録湿地以外の湿地への保護意識の高まりにつながっていくことを期待したい。

研修 =タケ=

日時: 5月 13日 (日) 10:00~12:20

場所: 平和公園 なごや東山の森

今回の観察指導員の研修目的は、実施中のタケの分布調査に併せたハチク、マダケ、モウソウチクの見分け方です。講師は名古屋支部鬼頭 保会員。

観察は、平和公園 なごや東山の森づくりの会で保全を行っている場所のハチクから始りました。ちょうど間近にタケノコが出ていましたので、特徴を知るにはとても良い時期でした。講師からハチクの特徴を、①タケノコの皮に黒い模様がないこと。②稈の節が2環であること。③上の環に膨らみがあること。④稈が白味を帯びていることなどの説明がありました。マダケ林では、あいにくタケノコは確認できませんでしたが、①タケノコの皮に黒い模様が点々とあること。②稈の節が2環であること。③ハチク、モウソウチクとは違って枝が空洞であること。④稈の緑色が鮮やかで美しいこと。などの特徴があるとの説明がありました。三つ目のモウソウチクは大きなタケノコも観察でき、①タケノコの皮下部に黒い模様が縞状に入ること。②稈の節が1環であること。③稈の節部に白粉があることなどを確認しました。また見分ける注意点として、個体差があるので元気そうな数本を見て確かめることが必要との説明がありました。

「くらしの森」には18種類の竹類が確認されているので、その一部であるクロチク、トウチク、カンチク、ホテイチク、スズコナリヒラ、スホウチク、ホウオウチク、シホウチクを観察しました。

レポート 名古屋支部 鬼頭 洋子



① モウソウチク (孟宗竹) 空洞がない

国内最大の竹(直径10~18cm、高さ20m以上)で、節は単環。節部には白粉がある。最大の用途は食用の筍であり、材は建築材、花器などに利用される。マダケ、ハチクとともに三大有用竹とされる。



② マダケ (真竹)

モウソウチクに次ぐ大型の竹(直径8~10cm、高さ10~20m)で、節は双環。稈の緑色が竹の中で最も濃く、材質にも優れるためほとんどの加工竹製品に使われている。皮もなめらかで、お握りや肉などの包装に利用されてきた。



③ ハチク (淡竹)

マダケに近い大型種(直径6~10cm、高さ12~18m)で、節は双環。稈の表皮にろう質状の物質が付着するため全体に白味を帯びている。材は縱割りしやすく、緻密であり、茶筅やひご細工等によく利用される。



引用: なごや東山の森「くらしの森の竹マップ」より

タケの利用方法としては、タケノコが美味しいのはモウソウチクとハチク、秋に出るシホウチクのタケノコも食べられるそうです。マダケは竹細工に使われ、身近なところでは、稈が美しいので門松に、皮は肉やおにぎりなどを包むのに使われます。飾り窓などの装飾用としてはクロチクやカンチク。鑑賞用としてはスズコナリヒラや株立ちのスホウチクやホウオウチクなどがあるなどの話題がありました。

あいちの観察会

ため池の自然と生物多様性

日時：5月6日（日）10:00～12:00

天候：曇り

場所：名古屋市緑区大高蝮池

集合：9:30 JR南大高駅

参加者：23名

指導員：14名

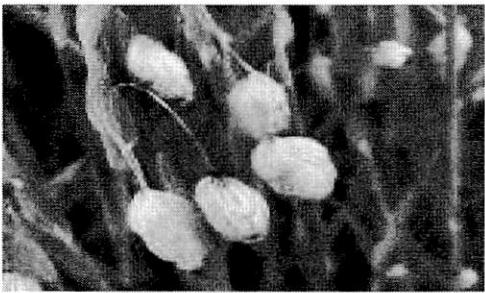
名古屋支部 萩原 育男

水辺に下り、釣りをしている人の脇の水中に網を入れると、一度にたくさんのスジエビが入り観察器を使い観察した。

池の周辺には木が茂りヒサカキ・ヌルデ・マサキ・エノキ・ジャヤナギなどがみられた。



集合地の草原にはコバンソウ・ヒメコバンソウ・ハルジョオン・ウマゴヤシなど初夏の草花が観察できた。



▲コバンソウ



▲スジエビ



水辺のジャヤナギの根の下に水網を入れ足でかき回すとヨシノボリ・タモロコ・スジエビ・ブルーギルなどの魚を捕まえることができた。



▲ブルーギル

小川が流れているところにはミズソバ・シロバナサクラタデの幼苗が一面に生え、秋にはピンク色の花がみられそうだ。その向こうには、ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）の白い花が木全体に咲いていた。

池の周りわずか1kmくらいであるが、野草・樹木・魚類・昆虫が生息している自然観察には適している所である。

あいちの観察会

初夏の里山で自然を感じよう

尾張支部 斎竹善行

日時：5月19日（土）10:00～14:00（快晴）

場所：海上の森（瀬戸市）

参加者：一般14名 指導員12名

5月の海上の森自然観察会を愛知県自然観察指導員連絡協議会の「あいちの観察会」として開催しました。いつもは常連が多い観察会ですが、今回は協議会ニュースや中日新聞での報道の効果あって、集合場所に集まった参加者は26名（尾張支部8人、名古屋支部3人、その他15人）でした。中には新聞の案内を見て参加した3組5名や3名の企業関係者もいました。ただ、海上の森ではいろいろな観察会が開かれているため、集合場所を間違えて、愛知環状鉄道山口駅で待っていた人、海上の森センターに行った人などもいて、一般参加を呼びかける際には集合場所の周知徹底を考える必要がありそうです。

この日のテーマは「初夏の里山で自然を感じよう」ということで、野山に咲く花などを見ながら物見山に登るコースをとりました。

駐車場を出て歩き出したらすぐ、コツクバネウツギ、ツクバネウツギ、シライトイウ、タンザワウマノスズクサ（オオバウマノスズクサの変種）、ミヤマナルコユリ、ウツギ、ヤマボウシ、エゴノキ、タニウツギ、ヤマハタザオ、ホオノキなどなど花がいっぱい咲いていて、なかなか前に進みま



▲観察会の様子

せん。この日の目玉はハクウンボクとジャケツイバラの花です。ハクウンボクは今年の花のつき方は多くはありませんが、ちょうど咲き始めたところを近くで見ることができました。ジャケツイバラは物見山への登りの途中、遠くにはほぼ満開の黄色の花を見ることができ、物見山で昼食をとった後の下りでも近くで花が観察できました。

また動物ではアサヒナカワトンボ、オオカワトンボ、ヤマサナエ、モンキアゲハなどの昆虫が見られ、野鳥ではサンコウチョウ、キビタキ、ウグイスなどの声を楽しむことができました。鳥の鳴き声を聞いて、それを文字にすることも体験してみました。

物見山への途中道の脇にオオルリの巣があり、数日前に4個あった卵が取られ、親鳥が営巣を放棄したという話を聞きました。野鳥の卵をとつて孵化させ飼育することは法律で禁止されているのに、心無い人の行動が悔やされます。

今回は天候にも恵まれ、参加者もいつもより多く、いろいろなものが観察でき、有意義な観察会だったと思います。

あいちの観察会

鳳来寺山自然科学博物館と参道散策

奥三河支部 小山 舜二

日時: 5月 20日 9時30分~15時

場所: 鳳来寺山

参加者 10名(全員指導員)

鳳来寺山の概要

鳳来寺山旧火山群の南端に位置する死火山であり、標高は 695m。「声の仏法僧(ブッポウソウ)」(コノハズク)が棲息していることや紅葉の名所として、更に鳳来寺や日本三大東照宮があることで知られる。

奥三河支部では、鳳来寺山自然科学博物館・鳳来寺山を会場に「あいちの自然観察会」を行った。

鳳来寺参道入り口の合鏡駐車場を集合地とし、参加者 10名は参道沿いの植生、この地特有の「ホソバシャクナゲ」や「ネズの木」を観察。

博物館見学は加藤館長の館内説明でこれから散策する多様性に富んだ鳳来寺山の地質、植生などの知識を得た。

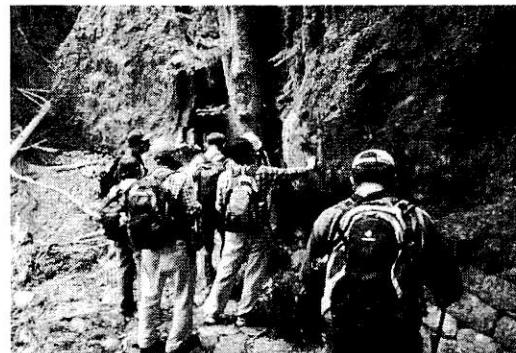
1425段を 25 分で上る小椋会員を先達に参道散策を開始。石段はじめの左を流れる音為川のポットホールでナガレホトケドジョウを観察。仁王門を過ぎると杉の巨木が目立つが、これは数百年前に植林されたことが杉の根張りから推察される。また樹齢800年の「傘杉」は樹高 59.57m で、現存する杉では日本一である。また傘杉保存会が供える「しめ縄」は環境にやさしく育てた「四谷の千枚田」の小山会員の田んぼの稻藁が使われているとの説明があった。石段を登るにつれて地元会員以外はだんだんと口数が少なくなってきたが、参道を吹き抜ける涼風に汗をかきながらも真剣な面も



ちで自然を堪能した。

やっと辿り着いた本堂の四阿で昼食。

鳳来寺に来たら必ず見ることと言われる「菩提樹」も珍しく花が見られて感激。鏡岩(松脂岩・新城市の石に指定)を背景に記念撮影。せっかくだからと東照宮も参拝し、歴史を感じた。帰路「龍の爪痕」などを観察。急な石段に「足が笑う」と言いつつも、皆満足げな表情であった。



▲「龍の爪痕」を観察

後日、参加した尾張自然観察会の山田会員から「暖かい人たちがいました。素晴らしい支部です。すばらしい自然に恵まれています。奥三河に転居したいくらいです。」とメールが寄せられた。

自然観察会のレクリエーション傷害保険について

1. レクリエーション保険の主旨

自然観察指導員は、NACS-J の「自然観察指導員災害保障制度」で、活動中の傷害事故に対し保障がされる仕組みができます。しかし、自然観察会参加者はこの制度の対象ではありません。観察会ごとに対応することになりますが、事務手続きが大変です。そこで協議会では、レクリエーション傷害保険を協議会で包括契約しています。事務が比較的簡素化されて万が一の事故に備えることができますので、ご利用ください。

2. 1日1人あたりの保険料 40円

3. 内容

◆保険種類: 普通傷害保険(行事参加者の傷害危険担保特約付普通傷害保険)

◆契約方式: レクリエーション傷害保険(行事種目 自然観察会およびクラフト教室など)

◆保険金額: (1人あたり) 死亡・後遺障害 600万円 入院保険日額 5,000円

通院保険日額 3,000円

◆保険期間: 毎年4月1日～翌年3月31日までの1年間

◆精算方式: 包括契約・毎月報告一括精算

◆被保険者: 愛知県自然観察指導員連絡協議会が実施する自然観察会およびクラフト教室など備え付け名簿記載の者すべて

◆保険の範囲: 自然観察会に参加するため所定の場所に集合し、参加者名簿記載から所定の解散地で解散するまでの、責任者の管理下にある期間

※1) 保険の対象者: 自然観察会の一般的な参加者とするが、指導員を含めても差し支えない。含める場合、参加者名簿(保険対象)に加えて毎月報告が必要。参加者名簿は事故があった場合提出することになるので、少なくとも氏名と住所と電話番号が必要。

※2) 参考:NACS-J自然観察指導員の保険

死亡保険金500万円、入院保険日額3,500円、通院保険日額2,000円。

指導員を当保険に含めるかどうかは各観察会で決定。

※3) 対象となる事故: 保険の対象は「自然観察会およびクラフト教室などの傷害」であり、有毒植物の誤飲や鋸・鎌を使っての作業中の事故、山岳登はんはレクリエーション保険の対象外。熱中症など病気と思われるものは含まない。不明な点は保険担当に相談ください。

4. 参加者数の報告と精算: 毎月、保険対象参加者数を翌月10日までに、E-Mail またはFAXで連絡。保険対象外の指導員の数は、備考欄へ記入。

年度末3月の観察会終了後、前年4月から3月までの保険対象参加者数を集計し、×@40円を振込み。郵便振替口座: 0082-9-6546 口座名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会

5. 事故の場合の事務: 事故が発生した場合は翌日までに下記保険担当者に状況を連絡。

・ケガをされた方(受傷者)の氏名、住所、電話番号、日中の連絡先、生年月日、性別

・事故日時と状況: 事故の日時、場所、ケガの箇所など。

参加者名簿(受傷者が当日の観察会の参加者であることを示す)をご提出ください。

保険担当者と連絡がとれない場合、下記保険代理店へ連絡いただいても結構ですが、必ず後ほど担当者にも連絡ください。

保険代理店 (株)ポッカオフィスプレイン 052-252-7331

保険金は治療終了後受傷者が所定の用紙で申告し、指定の口座に振込まれます。

健康保険などは使用した方が有利です。

※被害者への対応は誠意を持って行ってください。

■連絡先

愛知県自然観察指導員連絡協議会

保険担当理事 布目 均 (平成24年度現在)

E-Mail n-1104@yk.commufa.jp Tel & Fax 052-771-0396

.....

◆自然観察会の保険について、これまで「協議会ニュース」で毎年掲載してきましたが、新たな試みとして折り込み形式としました。保険内容に変更があった場合は、その旨をお知らせします。(第2回理事会にて承認。参照:p10) ◆折り込み形式の印刷物は、携行可能な1枚もの。観察会グッズのひとつとして持参ください。(編集部)

あいの観察会

福山川の生き物は今年も元気かな

日時：6月17日（日）9：30～11：30

天候：曇り

場所：阿久比町板山福山川

参加者：3名

指導員：8名



観察会開始の一時間前には小雨が降っていたので、実施の判断ができない状況でした。開始時刻になつたら雨が止み、空が明るくなり始めました。川の水位も若干高い程度で、子どもたちが活動しても安全な状態となりました。雨の影響か一般参加者の出足が悪く、一家族3名でした。

今回の観察会は、「あいの自然観察会」と、森税を活用した「あいの森と緑づくり環境活動学習推進交付金事業」とが協力して行いました。「あいの森と緑づくり環境活動学習推進交付金事業」から川の生き物のリーフレットが渡されました。一家族に一冊の予定でしたが今回は参加者が少なかったため、一人一冊プレゼントされました。

挨拶、連絡、諸注意の後、さっそく川に入り生き物採集を始めました。雨上がりしたばかりでも参加しただけに川遊び大好き一家でした。今回の活動は好き者ばかりの集まりで、要領良く生き物が採集できたよ

知多支部 降幡 光宏

うです。川は水量が多いえ濁っていましたが、たくさんの生き物を採集することができました。最後に採集した生き物を種類別に集めどんなものが見られたか確認し、観察後川に戻しました。

ちなみに福山川の観察会は2004年から行われ、当初湧水池で見られるホトケドジョウが見られましたが、最近見られなくなりました。今年は、ヨシノボリ、フナが見られませんでしたが、雨で流されてきたのか池で孵化したオオグチバスの稚魚が見られました。福山川の観察記録は当会のWebで振り返りができますので利用して下さい。

【観察した生き物】

- ①魚：タモロコ、オイカワ、メダカ、ドジヨウ、オオグチバス（外来）
- ②昆虫：オニヤンマ（成虫・ヤゴ）、シオカラトンボ（ヤゴ）、コオイムシ、コガムシ、アメンボ、コカグロウ、ガガンボ、ユスリカ
- ③貝：シジミ、タニシ、ヒメモノアラガイ、カワニナ
- ④鳥：カルガモの赤ちゃん
- ⑤その他：プラナリヤ、アメリカザリガニ、イシガメ、ヌマガエル、ダルマガエル、ウシガエル（オタマジャクシ、2年生）、ヒル、ミズムシ



自然観察のヒント

どんぐりのF1カー

西三河支局 沢江 喜代

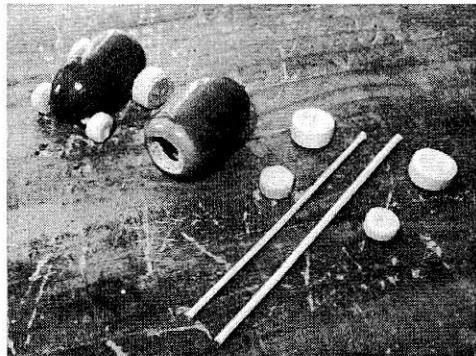
秋の声を聞くとバケツを片手にマテバシイ採取を目的にせっせと公園に出掛けます。散歩している人に「何を拾っているんですか?」と聞かれたときは「マテバシイというドングリですよ。工作の材料にします。茹でると食べられますよ。」というと興味を持って拾っていかれる方もいます。

マテバシイは、殻が厚く固いので虫が付きにくく、拾ってきたものは何年たっても割れずにきれいに残っているのがたくさんあります。

ある時、大き目のマテバシイを転がしておいたのがミニカーに見えました。以前、森で刈り払われたタカノツメ（直径3センチくらいから、えんぴつの芯くらいの木）をストックしていたのを思い出し、太目のものを輪切りにしてタイヤに見立て、細くてまっすぐなものを車軸に見立てました。手動ドリルでマテバシイに穴を開け、車軸とタイヤを取り付けました。走らせてみると粉が落ちてきました。中身が車軸によって削れて粉が落ちてきたのが原因です。そこで後ろから穴を開け中身をくり抜きました。

息子に見せると「F1カーのつもりなら後ろのタイヤが大きいんだよ」とアドバイスされ、前輪と後輪の大きさを変えました。F1カーのボディーとなったマテバシイにマニキュアを塗って仕上げました。

出来あがったF1カーは、中身をくり抜くために開けた穴にストローで息を吹き込むと良く走ります。



▲写真左奥：完成したF1カー

写真右手前：車体、タイヤ、車軸

【作成ポイント】

マテバシイに穴を開けるときは割れないように小さい穴を開け少しづつ大きくしていくと失敗が少ないです。また、球形のものに穴を開けようすると滑るので、皮手袋をするとケガ防止になります。

【加工せずに遊ぶ】

マテバシイは後ろがへこんでいてすわりがいいので、並べてボウリングのピンに見立ててビー玉をはじいてミニミニボウリングをすることも可能です。

私の活動紹介

尾張支部 平井 直人



1. 出会い

私のフィールドノートの1冊目は1983年10月10日の庄内川の記録から始まっています。高校2年生の時です。その頃の新聞にはサントリーの愛鳥キャンペーン広告がよく載っていました。野鳥の絵は戸内正幸さんのペン絵で、その生き生きした野鳥絵に感動し、自分も野鳥を見たくなりました。観察はほとんど一人で、時々友人を無理やり誘っていました。ところが、庄内緑地で観察会の人たちと出会ったことがきっかけとなり、観察場所は庄内川からどんどん広がっていき、野鳥だけでなく、昆虫や野草も記録するようになっていました。観察会で多くの人と出会い、みんなで野鳥を観察することの楽しさを知りました。

大学生になっても庄内緑地の観察会を続けていました。ある時、定光寺での水生昆虫の観察会に誘われました。駅前の水野川に入って水生昆虫を捕まえ、その種類から川の汚れを調べるという内容で、北岡明彦講師でした。北岡講師との出会いが今の自分の人生を決める出会いとなりました。その後の木崎に誘っていただき、昆虫や植物の興味と知識が広がり、自然のしくみを知ることの大切さに気付きました。

そして、1987年11月に定光寺で行われた指導員講習会を受講し、指導員となりました。しばらく研修として観察会に参加しながら、支部委託の観察会のお手伝いをしていました。この頃の経験が今の自分の職業観に結びついています。

2. 現在の活動

しばらくして支部主催の定例観察会が始まりました。自分も出来る所はないかと考え、善師野を選びました。善師野は支部として昔から観察会を実施してきた歴史のある場所です。自分が行きやすい場所というだけで決めました。自分が担当してもいいのかという気持ちもありました。第1回は1995年12月です。善師野駅を降りると、神社、田畠、竹やぶ、稻作用のため池、雑木林と里山の風景が広がっています。月1回ですが1年間歩いていると、竹やぶの管理や水田の畦管理、田植え、稻刈り、ため池の水抜き、側溝の掃除等の作業に出会います。善師野の自然はそこに暮らす人たちの生活そのものが作り上げたものであることを感じます。地元の方々とふれあいながら今年で17年目を迎えました。

一方の庄内緑地公園は都市公園です利用者にとって便利で楽しく、安全に利用できる場所であるように管理されています。そこにもしたたかに生きる生物がいます。その姿を観察するのも楽しいことです。

3. これから

自然観察会を通じて出会った人たちのおかげで今の自分があると思っています。生き方を決める前に出会えたことに本当に感謝しています。これからも出会いを大切にして自然の仕組みや、そこに存在していることの大切さを伝えられる観察会を続けていきたいと思っています。

第2回理事会

日 時：平成24年5月5日(土・祝) 13:30～17:00

場 所：名古屋都市センター

出席者：松尾、降幡、大谷、浅井、石原、近藤、石田、吉田、森田、布目、石川、瀧崎、齋竹、滝田、三田、星野、久米

議案1 タケの分布調査 調査担当 瀧崎 吉伸理事

- タケの研修会 5月13日(日) 10:00～12:00 平和公園 講師：鬼頭 保会員

現在県内に竹林がどの程度、どのような状態で広がっているのかをモニタリングすることは、県の自然環境を保全していくうえで意義がある。県内の竹林の分布と現状を把握する調査を実施し、3年間でまとめる。

議案2 パンフレットの改訂

7月16日(月・祝)にたたき台を提出。以後は実行委員会で審議する。

議案3 今後の日程

- フォローアップ研修会 10月7日(日)、8日(月・祝)海上の森センター
形態：通い(一部宿泊) 内容：水生昆虫 講師：足立高行(NACS-J理事、講師)
- 理事会 開催日の確認

開催回	日時	場所	議案
第1回	3月20日(火・祝) 10:00～	名古屋国際センター	総会の議案書
第2回	5月5日(土・祝) 13:30～	名古屋都市センター	タケの分布調査、パンフレット
第3回	7月16日(月・祝) 13:30～	刈谷市産業振興センター	フォローアップ研修会、パンフレット、ESD支援実行委員会
第4回	11月24日(土・祝) 13:30～	未定(尾張支部担当)	来年度の事業計画
第5回	平成25年2月11日(月・祝) 10:00～	未定(名古屋支部担当)	会計決算、来年度の事業計画の確認

議案4 事務局・会計・名簿管理・発送係との連携

- 平成24年4月24日(火) 19:00～21:00

事務局、会計、名簿管理の係が集まり、新会員が自然観察指導員講習会を終え入会を希望した場合の手続きについてまとめた。申し送り事項として理事会で確認した。

- 発送 5月(横井)、8月(横井)、12月・3月(名古屋支部会員有志)で行う。

議題5 会計の引き継ぎ(会計から)

完了。

議題6 (1) 各支部から・名古屋支部30周年チラシ

- 機関誌 ・愛知県自然環境課からリーフレット(移入種)配布の依頼。
・保険についての毎年の掲載を、折り込み形式とすることを承認。
内容に変更があった場合には、その都度お知らせする。

- (3) HP
- (4) 保険
- (5) 名簿管理

その他 会長から

(記録 石原)

「あいち自然ネット」定期総会

尾張支部 斎竹善行

あいち自然ネット（あいち自然環境団体・施設連絡協議会）は、県内の自然環境に関連する団体と施設が情報交換や交流を図るために平成19年12月に設立された任意団体で、「あいち海上の森センター」が事務局となっています。この4月時点の会員数は37で、私たちの愛知県自然観察指導員連絡協議会、尾張自然観察会、NPO法人東三河自然観察会も会員です。

その総会が4月14日（土）に「豊田市自然観察の森」で開催され、28会員（委任状を含む）が出席しました。総会は宮永会長が議長となり、23年度事業報告・決算、24年度事業計画・予算について審議され、それぞれ原案どおり承認されました。

24年度事業では、子ども自然教室「いきものたんけん隊」を4回開催することや、「第6回人と自然の共生国際フォーラム（従来のポスター・セッションのほか助成事業）」などへの参加が決まりました。また、新年度の役員が次のとおり選任されました。（敬称略）

▽会長：宮永正義（海上の森野鳥の会）（再任）

▽副会長：青山裕子（愛知県ネイチャーゲーム協会）（再任）、宮崎喜一（ART&LIFE自然学校）
島田勝彦（大府市自然体験学習施設二ツ池セレトナ）

▽事務局長：近藤和幸（あいち海上の森センター）

▽監事：布川一重（長久手平成こども塾）（再任）、伊藤光宏（親水会）（再任）

▽幹事：大谷敏和（愛知県自然観察指導員連絡協議会）、斎竹善行（尾張自然観察会）始め9名
なお、総会と併せて以下の二つのオプショナルイベントも開催されました。

□「豊田市自然観察の森を歩こう」～みんなで春の森を歩きましょう～

総会会場の豊田市自然観察の森について映像による紹介の後、一昨年新築されたネイチャーセンター内を見学し、野鳥の声が聞こえる広い森の中を散策しました。

□「本音でトーク（情報交換）」～困った問題はみんなで解決～

若い人が自然関係の施設や団体で働いていくためには、観察会などの参加費をどの程度としたらよいかなどの話題で盛り上がりました。

○ ● ○ 事務局より ○ ● ○

NACS-J 自然観察指導員フォローアップ研修会・愛知県「水辺の生きものから里やまを学ぶ」

主催：（財）日本自然保護協会・愛知県 協力：愛知県自然観察指導員連絡協議会

自然観察会のフィールドとして、小川や田んぼ、ため池など「里やま」の水辺を使う機会は多いはずです。そこに生息する生きもの、水生昆虫や両生類や魚などを観察し、記録することによって、「里やま」の環境やその成り立ちを知ることができます。日頃の観察会でも活用できる視点や手法を学び、地域の生物保全活動へつなげていきましょう。

■日時

平成24年10月7日（日）9:00～16:30

8日（月・祝）9:20～13:00

■会場 あいち海上の森センター

〒489-0857 愛知県瀬戸市吉野町304-1

TEL 0561-86-0606

■受講料 5,000円（保険料、テキスト代含む）

■宿泊 なし（宿泊希望者は各自手配）

■講師 足立 高行（NACS-J 理事、講師） 榎原 靖（環境科学調査センター）

■申込先 公益財団法人日本自然保護協会 教育普及部 大野 正人

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10

ミトヨビル2F

TEL 03-3553-4105、FAX 03-3553-0139

E-mail 2012@nacsj.or.jp

<< 行事案内 >>

■研修会

11月4日(日) 9:30~15:00	蛇紋岩植生の植物観察～雨生山(新城市中宇利) 集合:林道滝堂線入口の駐車場(最終集合場所) 駐車可能台数が少ないので乗り合わせをお願いします。 東三河支部担当:天野 0533-87-6012
------------------------	--

■支部行事(含愛知県自然観察指導員連絡協議会共催)

10月6日(日) 13:30~16:20 参加無料 定員100名 ワインク愛知 12階1201会議室 名古屋駅	■名古屋自然観察会30周年記念イベント 第1部 自然観察会活動紹介 スタンプラリー記念品引換 第2部 講演「名古屋の自然が危ない!」 鉄崎幹人氏 ※参加者に記念誌「なごやの自然」進呈 先着100名 ※パネル展示 9/22~27 地下鉄「久屋大通」展示会場 主催:名古屋支部(名古屋自然観察会)
11月23日(金・休) 午前の部 9:30~11:00 午後の部 13:00~16:15 知多市地域文化センター 名鉄常滑線 「新舞子」駅下車 →東へ徒歩約6分	■知多自然観察会創立30周年記念事業 午前の部(協議会の日 支部共催行事) 自然観察会:馬池・稻荷山周辺の自然と生きもの観察 9:30までに知多市地域文化センター前集合 主催:愛知県自然観察指導員連絡協議会 共催:知多支部(知多自然観察会) 午後の部(創立30周年記念 支部主催行事) 講演会:講演者、内容共に交渉中(7/16現在) パネルディスカッション 展示会:会員による成果物の展示と披露(9:00~16:15) 主催:知多支部(知多自然観察会)

編集部から

- 「協議会ニュース」の発送担当の横井邦子会員が今月号で降板。長年に渡って担当いただき感謝いたします。ありがとうございました。
- 今秋は10、11月、名古屋支部及び知多支部の30周年記念事業が続きます。他支部の活動にも是非参加しましょう。

編集スタッフ
岡田 雅子 久米未祐
近藤 記巳子 新山 雅一
山口 健
発送スタッフ
横井 邦子

「協議会ニュース」編集部
〒457-0006 名古屋市南区鳥栖2-6-17
桜本町CH101
近藤 記巳子
TEL / FAX 052-822-7460
E-mail : konkimi@nifty.com

- 愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 石原則義
TEL / FAX 052-711-3087 E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp
- Web Page : <http://naichi.net/>

自然観察会のレクリエーション傷害保険について

1. レクリエーション保険の主旨

自然観察指導員は、NACS-J の「自然観察指導員災害保障制度」で、活動中の傷害事故に対し保障がされる仕組みができます。しかし、自然観察会参加者はこの制度の対象ではありません。観察会ごとに対応することとなりますが、事務手続きが大変です。そこで協議会では、レクリエーション傷害保険を協議会で包括契約しています。事務が比較的簡素化されて万が一の事故に備えることができますので、ご利用ください。

2. 1日1人あたりの保険料 40円

3. 内容

◆保険種類: 普通傷害保険(行事参加者の傷害危険担保特約付普通傷害保険)

◆契約方式: レクリエーション傷害保険(行事種目 自然観察会およびクラフト教室など)

◆保険金額: (1人あたり) 死亡・後遺障害 600万円 入院保険日額 5,000円

通院保険日額 3,000円

◆保険期間: 毎年4月1日～翌年3月31日までの1年間

◆精算方式: 包括契約・毎月報告一括精算

◆被保険者: 愛知県自然観察指導員連絡協議会が実施する自然観察会およびクラフト教室など備え付け名簿記載の者すべて

◆保険の範囲: 自然観察会に参加するため所定の場所に集合し、参加者名簿記載から所定の解散地で解散するまでの、責任者の管理下にある期間

※1) 保険の対象者: 自然観察会の一般的な参加者とするが、指導員を含めても差し支えない。含める場合、参加者名簿(保険対象)に加えて毎月報告が必要。参加者名簿は事故があった場合提出することになるので、少なくとも氏名と住所と電話番号が必要。

※2) 参考: NACS-J 自然観察指導員の保険

死亡保険金 500万円、入院保険日額 3,500円、通院保険日額 2,000円。

指導員を当保険に含めるかどうかは各観察会で決定。

※3) 対象となる事故: 保険の対象は「自然観察会およびクラフト教室などの傷害」であり、有毒植物の誤飲や鋸・鎌を使っての作業中の事故、山岳登はんはレクリエーション保険の対象外。熱中症など病気と思われるものは含まない。不明な点は保険担当に相談ください。

4. 参加者数の報告と精算: 毎月、保険対象参加者数を翌月10日までに、E-Mail またはFAXで連絡。保険対象外の指導員の数は、備考欄へ記入。

年度末3月の観察会終了後、前年4月から3月までの保険対象参加者数を集計し、×@40円を振込み。郵便振替口座: 0082-9-6546 口座名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会

5. 事故の場合の事務: 事故が発生した場合は翌日までに下記保険担当者に状況を連絡。

・ケガをされた方(受傷者)の氏名、住所、電話番号、日中の連絡先、生年月日、性別

・事故日時と状況: 事故の日時、場所、ケガの箇所など。

参加者名簿(受傷者が当日の観察会の参加者であることを示す)をご提出ください。

保険担当者と連絡がとれない場合、下記保険代理店へ連絡いただいても結構ですが、必ず後ほど担当者にも連絡ください。

保険代理店 株式会社オフィスブレイン 052-252-7331

保険金は治療終了後受傷者が所定の用紙で申告し、指定の口座に振込まれます。

健康保険などは使用した方が有利です。

※被害者への対応は誠意を持って行ってください。

■連絡先

愛知県自然観察指導員連絡協議会

保険担当理事 布目 均 (平成24年度現在)

E-Mail n-1104@yk.commuufa.jp Tel & Fax 052-771-0396

.....

◆自然観察会の保険について、これまで「協議会ニュース」で毎年掲載してきましたが、新たな試みとして折り込み形式としました。保険内容に変更があった場合は、その旨をお知らせします。(第2回理事会にて承認。参照:p10) ◆折り込み形式の印刷物は、携行可能な1枚もの。観察会グッズのひとつとして持参ください。(編集部)